

3月25日は「電気記念日」です



明治11年、西暦1878年の3月25日に、わが国で初めて公式に電灯が点灯されました。

これは、工部省電信局が、東京木挽町に電信中央局を開設したその開局式の祝宴が東京・虎ノ門の工部大学校の講堂で、大臣、各国公使などを招き盛大に催され、この会場で、英国人エアトン教授の指導の下で、電信科 学生 藤岡市助らによりグローブ電池50個を使い講堂の天井に備えられたアーク灯(デュボスク・アーク灯)が灯されました。

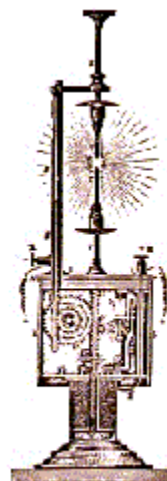
現在の電灯と違い調整が難しく「パツと明るくなって万雷の拍手が鳴り響いた次の瞬間、スーと消えた」と記録に記されていますが、ともかく、これがわが国の電気の歴史の1ページを飾る電灯が、公の場所で初めて点灯された一瞬でした。わが国の近代化の糸口となった画期的な出来事でした。

本会では、昭和2年に開催された定時総会において、この3月25日を「電気記念日」と定め、翌3年から毎年3月25日を中心に、本会並びに地方電気協会が中心となり、全国各地でさまざまな記念行事を催してきました。今年も3月25日に全国各地で祝賀式典、功労者表彰、講演会などの記念行事を開催いたします。

社団法人 日本電気協会



工部大学校(東京・虎ノ門)



デュボスクアーク灯